

≡ 文化財だより

第 14 号

平成13年 3 月

発行 真鶴町教育委員会

特集

文化財ウォーキングのすすめ

健康を維持することは、だれもが望んでいることです。そして、そのために、最も簡単に年齢を問わず、いつでもできることは、歩くことです。休日ともなれば、半島を歩く多くのハイカーを見かけます。また、朝夕に御林の中であいさつをかわす姿も見かけられます。多くの人々が森林浴を楽しみ、ウォーキングで汗をかいています。

自然と歴史に彩られた町

真鶴は海もあれば、山もあり、季節ごとの様々な自然に出会う町です。こうした自然の中を歩くだけでも楽しみはありますが、ちよつと足を止めてください。路傍には、かつて、この地に住んでいた、また、訪れた人々の足跡が刻まれています。真鶴を愛した多くの文化人が残した碑、縄文式土器が出土する遺跡、源頼朝が再起を期して船出した岩海岸、江戸築城のため石を切り出した丁場跡、

等々のたくさんの歴史が道の傍らに

隠されています。

真鶴は縄文の時代から人々の営みが行われてきた町です。こうした歴史に思いを馳せながら歩くのも、ウォーキングの楽しみの一つです。

過去から未来へ続く道

現在、町では文化財審議委員の皆さんの協力により、石造物の^{しらべ}調査を進めております。その調査対象は約四百体にも及び、石材の町の一面がうかがえます。路傍に見られる石造物の代表的なものの中に道祖神があります。道祖神の姿、形、表情などを見比べて歩くのも一興です。皆さん、それぞれの着眼点をもって歩いてはいかがでしょうか。

自分が住んでいる町だから、歴史を知り、愛情をもって、次の世代につなげていきたい、という思いを込めて特集を組みました。三つのコースを提案しましたが、歩き方は人それぞれです。ご自分で自由なコースを組んでみてください。

特集

目次

文化財ウォーキングのすすめ……1

自然と歴史に彩られた町

過去から未来へ続く道

真鶴町教育委員会

荒井城址公園～尻掛海岸……2～3

～三ツ石コース

真鶴港～一本松……4～5

町民センターコース

西念寺～岩海岸……6～7

石工先祖碑コース

視察研修レポート……8

「北関東の古墳と石造物の調査」

文化財審議委員

櫻井 武

平成十二年度文化財保護事業……8



ボラ網の尻掛海岸

文化財ウォーキングのすすめ ①

荒井城址公園〜尻掛海岸〜三ツ石 約6 km

駅前をスタート、山回りに道をとおり、海岸線をたどり、貴船神社に到着。そのむかし、風外道人が詠んだ「真鶴八詠」を偲んで歩くのも趣があります。

海岸線をたどり、貴船神社に到着。そのむかし、風外道人が詠んだ「真鶴八詠」を偲んで歩くのも趣があります。

① 荒井城址公園
後三年の役（一〇八三年）に源義家に従って活躍した荒井実継の居城跡といわれています。春は桜の見所でもあります。

② 釈迦堂遺跡
縄文式土器が出土した遺跡。子どもの頃、土器を拾い集めた記憶がありませんか？

③ 新井坂分かれ道
新井坂を県道に下ると地藏堂があります。このお堂の前に元禄時代の道標があります。

④ 尻掛海岸
寛永十四年（一六三七年）に紀州からきた田廣与次兵衛が鰯網漁を始めた海岸です。小じんまりとした静かな入り江です。

⑤ 道無海岸
この海岸ではオリンピックの前年（昭和三十八年）世界近代彫刻日本シンポジウムが開催され、フランス、ドイツ、日本等の十二名の彫刻家が参加し、その作品は代々木の国立競技場の広場に飾られました。

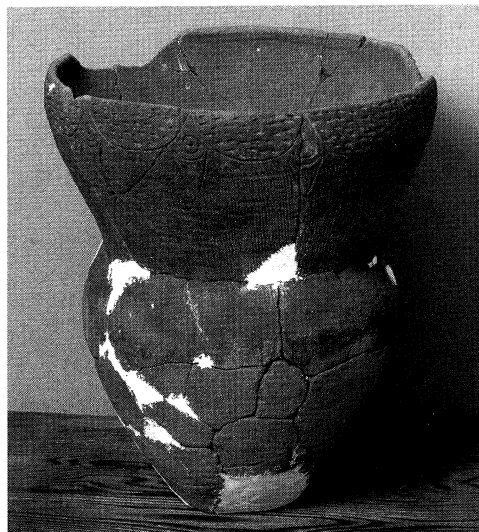
⑥ 石の広場
昭和五十七年に公園として整備されました。坪内逍遙をはじめ県内、町内の俳句同人の句碑や片山哲の詩碑などがあります。また、真鶴の恩人胎中楠右衛門の石像があります。

⑦ 御林
江戸時代は小田原藩の御領林、明治時代は皇室の御料林、戦後は国有林として保護されてきました。昭和二十七年、町に払い下げられ、現在は魚つき保安林に指定されています。大事に次の世代につたえたい森です。

⑩ 貴船神社
「貴船神社の船まつり」は重要無形民俗文化財として平成八年に国の指定を受けました。また、境内には江戸時代の石燈籠や九州の鍋島藩が寄進した手水鉢があります。

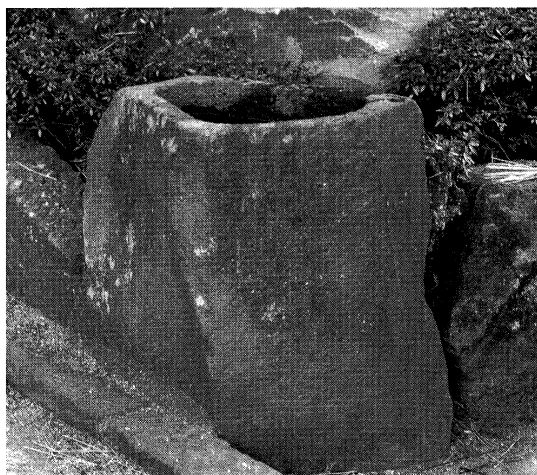
⑨ 山の神
お山の神様として採石業者から作業安全の、漁業者からは豊漁祈願の神様として崇敬されています。

⑧ 三ツ石（笠島）
真鶴の象徴です。与謝野晶子の歌碑。ボンボン鯨の伝説。県指定天然記念物のウメボシイソギンチャクの群生地。岬の先端には幕末に築かれた砲台跡があります。



釈迦堂遺跡出土の縄文土器

発見や疑問がありましたら、是非、公民館図書室に来て、郷土史料をご覧ください。



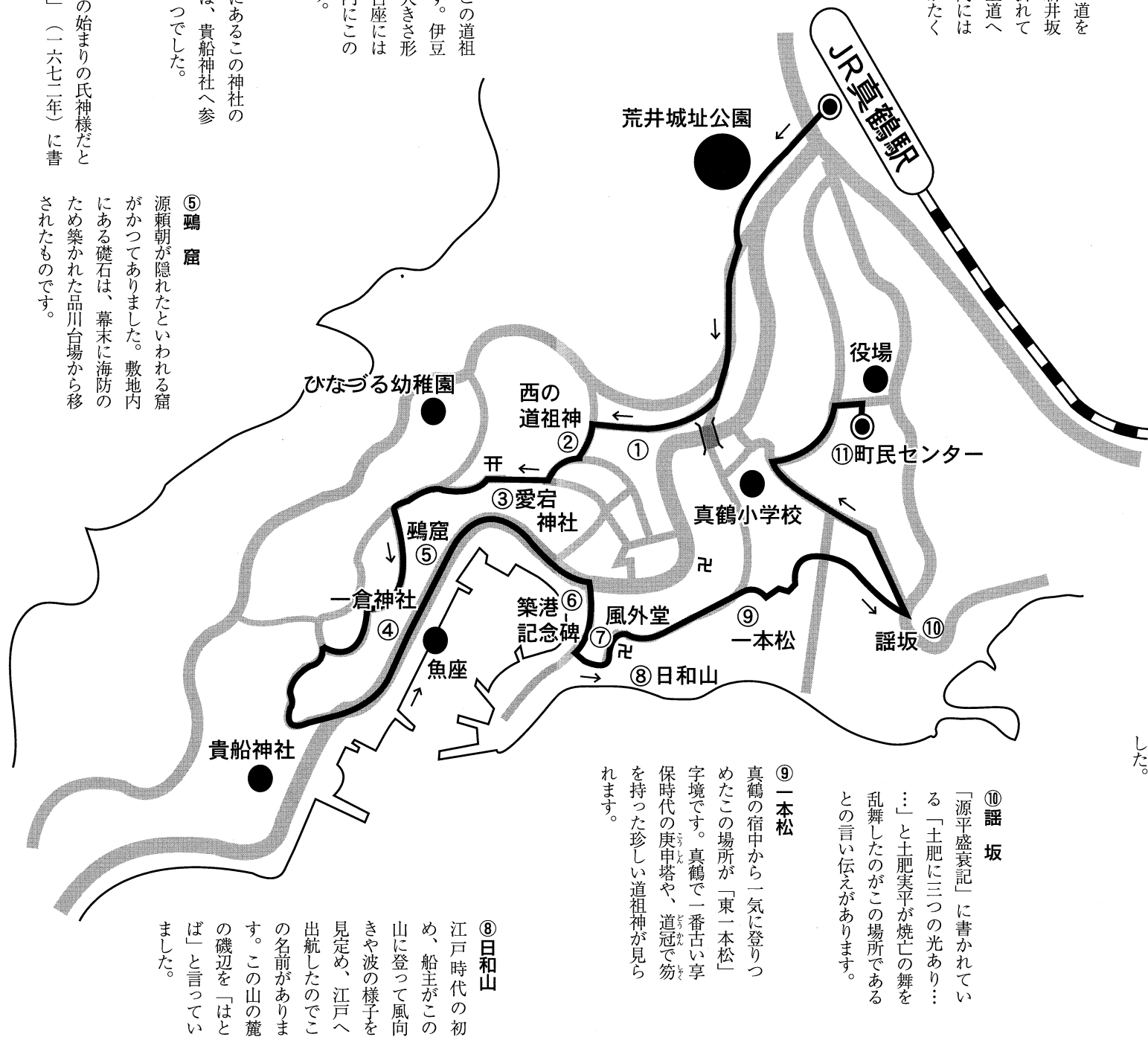
鍋島藩寄進の手水鉢

真鶴港〜一本松〜町民センター
約4km

港を巡り、磯崎から日和山ひよりやまへ上がり、尾根づたいに一本松へ。そこから古道を下り、謡坂から町民センターへ向かう。背戸道・古道を主としたコースです。

⑪ 町民センター
玄関前にある鴟窟縁起と頼朝の線刻像が刻まれた石碑は、鴟窟地内から風化防止のため、ここへ移されました。また、この周辺は江戸時代には丸山丁場と言われる採石場でした。

昔、西の地域の人々は大店の前の道を
通り、西の道祖神の所へ出て、新井坂
を登りました。途中から右手に折れて
向い山の道に入り、三軒町から上道へ
進み熱海道へと出たのです。町内には
こうした歩行者の道(背戸道)がたく
さんあります。普段、通ら
ない小道を歩いてみるのも
ちょっとした冒険です。



神奈川県立歴史博物館には、この道祖神のレプリカが飾られています。伊豆系の僧形丸彫道祖神としては大きな形態とも素晴らしいものです。台座には造立年が刻まれています。町内にこのほか十箇所、道祖神があります。

真鶴西地区のはずれにあるこの神社の側の階段（西の坂）は、貴船神社へ参詣する宮参りの道の一つでした。

一倉神社は真鶴の始まりの氏神様だと「真鶴村書上帳」（一六七二年）に書かれています。

源頼朝が隠れたといわれる窟がかつてありました。敷地内にある礎石は、幕末に海防のため築かれた品川台場から移されたものです。

昭和九年四月一日に漁港完工式が行われました。工事完成までの苦心が刻まれています。また、この碑のわきにはサーフ90の際、作製された彫刻があります。町内にはあと四作品がありますので、自分の足で発見してください。



寛永四年（一六二七年）**風外慧董**六十歳の時、真鶴にやって来ました。「布袋ほてい」の絵画や書が今に伝えられています。

西念寺〜岩海岸〜石工先祖碑 約4 km

岩地区内を散策し、魚市場脇の急坂（才ト坂）を上がり石工先祖碑へ向かいます。江戸時代から岩の村人の生活が石工業に支えられていたことが、碑文に記されています。

② 兒子神社

③ 瀧門寺

④ 民俗資料館

真鶴中学校

⑤ お天王さんてんのう
お天王さん（津島神社跡）に
は、元文五年（一七四〇年）
の庚申塔、元禄四年（一六九
一年）の燈籠があります。

⑥ 如来寺跡

洞窟入口には創立当時を考ええさせる「覚仏」碑や「南無阿弥陀仏」の番号碑があります。洞窟内は極楽が高く、地獄が低くなっています。十王たちの持物をよく観察してみましよう。

⑦ 源頼朝船出の浜

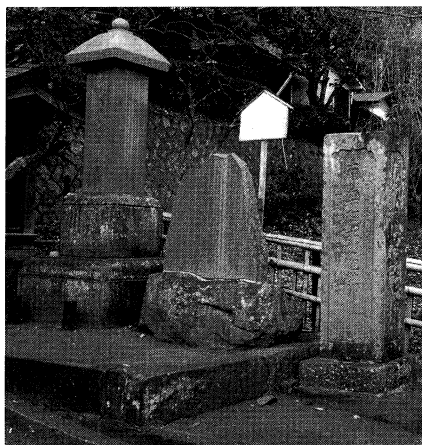
「源平盛衰記」にここから安房国へ船出したことが記されています。浜辺に塩合しおあ温おんの詩碑があります。

⑧ オト坂と謡坂

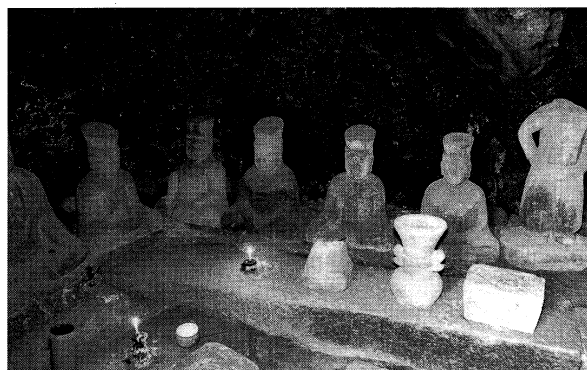
岩の魚市場から石段を登る道
をオト坂（ウトウ坂）と昔か
ら呼んでいました。この道の
先に謡坂の碑があります。オ
ト坂と謡坂、どんな関係があ
るでしょう。

⑨ 石工先祖の碑

平安末期、岩村の石材業を開いた「土屋格衛」の業績と江戸時代に裕福な生活を営めた岩村の理由などが刻まれています。



黒田長政供養の碑



如来寺の十王像

文化財審議委員会

県外視察研修レポート

平成十二年六月五日～六日

北関東の古墳と

石造物の調査

櫻井 武

平成十二年度、文化財審議委員会では埼玉・群馬両県の古墳や石造物の調査を実施しました。石を使った文化と歴史をたどり、文化財の展示、保存、活用を取り組みを視察しました。場所は北関東の西部、秩父山地が広大な関東平野に出会う地域です。

三世紀末から七世紀にかけて、全国でたくさんの古墳が造られました。古代の首長達は、大きな河川をコントロールし、広大な原野を水田にかえました。その力を誇示するために、人工の丘を造らせ、墓所としたのが古墳です。古墳の中心には巨大な石棺があり、古墳造りは石を利用する文化でもあったといえます。稲荷山鉄剣で有名な、埼玉県行田市「さきたま風土記の丘」は特に多くの古墳が集中する場所です。埼玉県では「帯を公園」とし、現在残る古墳を保存、学習と研究の場として「さきたま資料館」を設けています。

当時、地域の開発には、朝鮮半島から渡ってきた人々の力が活かされました。その一端を示すのが、日本三古碑のひとつに



丸墓山古墳からの眺め
(埼玉古墳公園)

数えられる群馬県吉井町の多胡碑や、埼玉県高市の聖天院にある高句麗王若光の墓塔です。

多胡碑は、奈良時代、この地域に多胡郡という行政区を設置した由来を記した石碑です。多胡というのは「外国人が多い」という意味で、大和朝廷が渡来人を使つてこの地域を開発させた次第をうかがわせる資料です。また、碑に彫られた書体は、古来書道の手本として有名です。吉井町では、多胡碑記念館を設け、石碑の保存はもちろん、文字や書の歴史を知る博物館、また、町民の文化活動の場としても活用していました。

多胡碑の材質は牛臥砂岩と呼ばれる地元の石を利用しています。古来人々は地域で得られる石を利用して、それぞれ

特色ある石材文化を築いてきました。

私たちの地域では箱根火山の溶岩である小松石を利用してきました。これは御影石などとともに、マグマが冷えてできた火成岩を使う文化です。二方、色鮮やかで光沢のある変成岩や、砂岩やチャートなど、海底で積もった堆積岩を使った文化もあります。今回調査に訪れた地域は、こうした石を使う文化でした。

秩父青石と呼ばれる、薄くはがれ、光沢のある青い変成岩があります。岩石学的には緑泥石片岩と呼ばれ激しい地殻変動によつて造られた日本列島の歴史を物語る石でもあります。

鎌倉・室町時代に、関東を中心にたくさん石の板碑(石卒塔婆)が作られました。特に埼玉では、地元の青石を使つた、たいへん美しい板碑が数多く残されています。それらが保存されている埼玉県都幾川村の慈光寺や同小川町の大聖寺を訪れました。この地域では、石碑の他、庭石や石垣にも利用され、建物の土台の多くが光沢の



慈光寺霊山院にて

ある青い石で彩られていました。洗った小松石の石垣を見慣れた目には、不思議な光景でした。この地域では、何万年も前の旧石器時代から、この青石を用いた歴史があります。その伝統は、現在の町並みの風景にも引き継がれていました。あらためて人と石の文化を考えました。今後の文化財保護・教育普及活動に活かしていきたいと思っています。

平成十二年度文化財保護事業

◎文化財広報啓発事業

・文化財だより第十四号発行

・町民センター・民俗資料館展示事業

各施設で年間六回の企画展示を実施

◎文化財審議委員調査研究事業

・町内所在の石造物調査

真鶴全地区を対象に石造物の所在確認調査を実施

・調査研究事業

一月七日、静岡県伊東市「新井の大祭り」を視察。海上渡御、鹿島踊等の祭典諸行事の調査を実施。

・県外視察研修

六月五日～六日、群馬県及び埼玉県
の石碑、古墳等の視察研修を実施。

◎文化財審議委員協力事業

教養講座「くすのきゼミ」に講師として協力

・「真鶴の石造物と江戸築城」9/30